

「子供に外遊びを！」現場発生品・余剰材を使用した遊び場づくり

福田道路(株) 正会員 北添 慎吾

1. はじめに

「子供が体を動かす機会が減少している」

人間が発達・成長し、創造的な活動を行っていくために必要不可欠なものは人間力である。それにはまず体力が必要となる。最近では、各地で総合型地域スポーツクラブが定着しつつあるものの、スポーツをやる子とやらない子の2極化が問題となっている。また、移動の円滑化・快適化の整備により「体を動かす機会」が大幅に減少している。

そこで「子供に体を動かす機会を増やす」という理念の下、建設会社になにができるのかを考え、「地域とつながる」そして「子供に外遊びを！」を念頭において、道路拡幅工事現場に隣接した保育園の園庭に「遊び場」を造り、今後の展開を検討したものである。

2. 農村地区の現状

現場は日本海に面した山陰地方の農村地帯であり、高齢者が多く子供の少ない地域である。また当地区は集落が散在しており、典型的な車社会で、近くに学校や保育園があるにもかかわらず、子供達が鬼ごっこやかくれんぼをして、楽しそうに遊んでいる光景をほとんど目にすることがなかった。

3. 実践「遊び場をいっしょにつくろう！」

3-1. つながる

現場に隣接する保育園から、運動会の2週間前に「工事のついでに園庭の土砂を撤去していただけませんか」という声かけがありました。そこで「おもいっきり遊べる遊び場を造りましょう」と提案させていただきました。遊び場工事を始めるにあたり、当現場の作業員との交流を深めるために、園児達に本物の工事を見せることにしました。園児達はレッカーでL型擁壁を設置する作業を「すごい力持ち！」などと興奮しながら見学したり、順番にバックホウに乗ったりして満面の笑顔で喜んでいました。これで、保育園と当現場の作業員達がつながることでモチベーションは大幅にアップしました。



写真-1 (現場見学)



写真-2 (重機の試乗)



写真-3 (満面の笑顔)

3-2. 遊び場工事のガイドライン

以下に示すガイドラインを定めて工事を計画した。

材料費無料の原則：現場発生品や余剰品を使用して、**低コスト**で作成する。

走り回れるような単純な構造：鬼ごっこ・かくれんぼ・泥遊び・水遊びを基本とする。

安全に配慮：落下高さ1m以内・クッション材の設置

子供とともに創造する：出来上がる過程を自然に見せ、遊ばせて改良する。

キーワード 人間力、体力、車社会、つながる、低コスト、遊べる移動空間

連絡先 〒556-0011 大阪市浪速区難波中3丁目9番1号 福田道路(株) 関西支店 TEL06-6649-1389

3-3. 保育士・子供たちといっしょに 設計施工

先生・子供たちとコミュニケーションを取りながら、以下に示す改善及び工夫を行った。

工場に余っていたコンクリート二次製品を使用してトンネル山を造成。トンネルは職員室から直接見通せる角度に設定し、また、頂上からは大山と日本海が見渡せる位置とした。

トンネル出入口部に簡単な岩登り体験ができるように河川用のブロックを土留代わりにした。

風化侵食の進む大山をイメージした山を造成し、頂上付近に水を貯める池を設置し、そこから水を流して、自然に川ができる過程を実体験できるものとした。

実際に子供たちに体験させながら、2つの山を走り回りやすい傾斜とした。

良質な大山黒ボク土が現場から発生したので、どこにでもある砂場ではなく泥ダンゴ場を設置し、子供たちに泥遊びの楽しさを実感してもらうものとした。

トンネル山、黒ボク土を入れた泥団子場、川が造れるミニ大山



写真-4 (作業中)

写真-5 (作業に夢中)

写真-6 (完成)

写真-7 (開放)

4. 「遊び場」の効果

外遊び時間の増加：園児たちの1日あたりの外遊び時間が約2割アップ。

子供たちや保育士さんの笑顔：材料を運んで来て、機械が動いて、遊び場ができる様子を興味深く見守る子供たち、そして完成してから、はじけるような笑顔で鬼ごっこやかくれんぼをして走り回っている子供たちを見た時点で、本当に喜んでもらえる地域貢献ができたものと確信。

作業員のモチベーションアップ：園児との交流を通じて小さなことでも地域のお役にたてたという意識。

5. まとめと今後の課題

今後の検討課題として「まち全体が遊び場になる」という発想を提案していきたい。

学校の校庭や保育園の園庭は、遊具の配置や道具の置き場所を少し工夫するだけで、子供たちの外遊びの幅が無尽大に広がることが実証されており、道路施設の中のポケットパークや未使用の植栽帯等を利用・工夫して「**遊べる移動空間の実現可能性**」をまち全体で考えてみてはどうだろうか。また、図-1に示すように公園及び道路整備事業と地域コミュニティ活動を組み合わせることで、安全・安心で快適そして活気のある道路空間を創造し、昔のように子供が道路で遊び高齢者がそれを見守る、そのような道路環境の実現を提案していきたい。

今回、遊び場の使用は園児に限定されており、道路への展開にはクリアすべき問題が多い。しかし道路は大切な生活空間であって移動の為にだけ存在するものではない。道路管理者・警察・地域住民の方々と主役である子供たちを巻き込んで大いに検討し、大きな公園の華やかな複合遊具では創造できない素敵な遊びの世界を実現させていきたいと考えている。

【参考文献】 文部科学白書・子どもとつくる遊び場とまち・遊具事故防止マニュアル

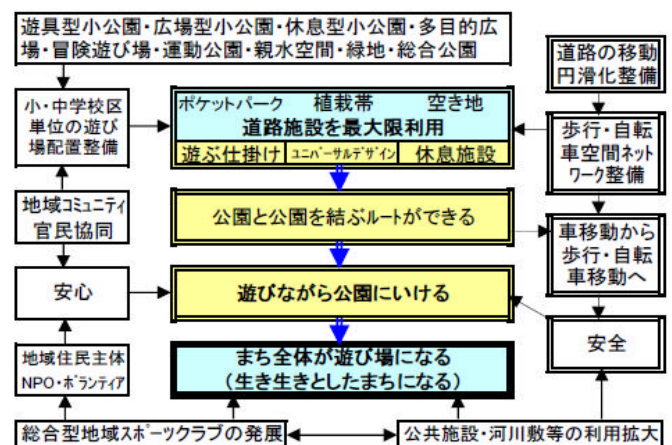


図-1 今後の検討課題「まち全体が遊び場になる」